



地域日本語支援ニュース こだま 268 号

2015.1.8



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

小泉かさねさんご寄稿

「世界中の素晴らしい人に会いたい！！」

2■お知らせ■

AJALT 公開講座「落語、新しいつながり」 講師：柳家さん喬師匠

2月20日（金）開催 於：昭和女子大学

=====

1■ともに生きる■

世界中の素晴らしい人に会いたい！！

小泉 かさね

（公財）鳥取県国際交流財団は東部に鳥取市、中部に倉吉市、西部に米子市と3市を国際交流活動の拠点としています。その倉吉市の日本語クラスで、海外での日本語教師の経験を生かして活動されている小泉かさねさんが、活動に込めた思いを綴ってくださいました。

◆原点◆

「世界中の素晴らしい人に会いたい！！」それが私の原点です。人生を変えたのは一人の中国人実習生でした。彼女の生き方、温かさに多くを学びました。その後日中関係は幾度も険悪になりましたが、中国に素晴らしい人がいる事を私

は知っています。2007 年に日本語教育能力試験合格後、日本語教師のスタートで AJALT の津田先生の講演を聞き、授業の組み立て方等、方向性を示して頂けたこと、2008 年シリアのアレッポ大学に赴任して体験したことも私には必然の出会いだったと感じています。

◆シリア◆

昨日も私のシリアのお母さんは、寒い中、1 日中電気もガスもなしで過ごしたと facebook で言いました。食べ物を買に行く道は命がけです。学生の一人が死んだ場面もネットで見ました。私が温かい心に包まれて過ごした街は、今破壊されています。でも自分の危険を顧みず、撃たれても撃たれても倒れた人を助けにいくシリアの人の心を私は信じています。私の心は絶えずどこか痛い。でも、どんな状況でも最高に幸せに生きる、出来る事をして、後は天に任せる、シリアでの経験は私にそう決心する強さをくれました。もし悲しみに沈んでしまったら、自分の発揮できることが減ると思います。

◆海外で働いてよかった3つの点◆

海外では、現実を垣間見ることができました。

1 つ目は、語学の政治的側面です。シリアの後、2011 年からウズベキスタンに赴任しましたが、そこは旧ソ連領で、母国語を禁止されていた時代があり、今も公用語はロシア語とウズベク語です。

2 つ目は国力です。日本のパスポートの強さ、日本人の有利さを感じました。アラブ人というだけで、平和な時でも入国に保証人が必要だったり、日本人と結婚しても半年以上認められず、政府から抜き打ちで確認の電話等があります。

3 つ目はメディアの現状です。シリアに行く前、“日本は外国の情報も入る、自由な国でアラブの国は情報が統制されている”と思っていましたが、シリアのチャンネル数は 2000 以上、世界中の番組を見る事ができます。私が日本で育んだ多くの“事実”は誤解だと気づきました。

もし私が、日本しか知らなかったら、今クラスで顔を見ている学習者の同じ顔が、今とは違った風に見えていたと思います。

◆学習者の多様性とともに◆

2013 年から鳥取大学と鳥取県国際交流財団で現在お世話になっています。担

当クラスはどれも 10 名前後、多国籍で、1 クラスに 10 ヶ国の人がいる場合、交戦国同士の人がいる場合もあります。職業・滞在期間・日本語レベル・目的も多様です。

私は単なる感覚や知識をあてにしないようにしています。互いの相違点に注目すれば、違いが限りなく見えてきますし、同じ点に注目すれば、“私たちは同じだ”と感じます。

私の幸せな時間は学習者といるときです。みんなと笑っているとき私は天国にいます。その思いが、困難のとき、人が希望を持ち続ける原動力となると思っています。日本語は大事だけど、みんなと幸せを感じるための道具に過ぎない。その幸せな時間のために私は日本語を伝える能力を上げていきたいと願っています。

☆ 皆様からのご感想をお寄せください。☆
